

# 奈良県立医科大学附属病院の取り組み報告

～第26回障害者職業リハビリテーション研究・実践発表会～

11/9（金） 東京ビッグサイト

【報告】奈良県立医科大学障害者雇用推進マネージャー 岡山弘美さん

「障害のある係員とともに患者さんから信頼される病院をめざして」

【主催】独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構



## ◆奈良医大病院の障害者雇用概況

奈良県立医科大学附属病院は障害のある係員 33 名が就労、支援者は2名です。

玄関での挨拶をはじめ病棟、薬剤部、内視鏡部、検査部、放射線部、タオル部門等で、医療現場で就労しているのが特徴です。係員の無心に働く姿は患者さん、看護師さん等に感謝され、「ありがとう！」と言葉がかけられています。この感謝が係員の働く意欲、成長の源となっています。

障害のある係員を信じ任せるからこそ、各部署で係員は力を発揮しています。

## 〈経緯〉

- 2009年（H21） 独立行政法人となり、法定雇用率を下回る
- 2014年（H26） 知的障害者5人を採用
- 2015年（H27） 障害者雇用推進係を発足  
法定雇用率を達成（2.31%）、以降3年間達成。
- 2018年（H30） 法定雇用率達成（2.77%）



岡山弘美・同大学障害者雇用推進マネージャーは、当初1年半は、係員との関係がうまくいかず、「支援者失格」と悩み、つらい日々だったそうです。「障害者である前にひとりの人間として尊重することとし、素直に正直に係員と向き合うようになって初めて心が通い合い、係員のみなさんが支えてくれるようになりました。人として係員から教えられました」と、岡山マネージャーは心情の核心を語られました。

現在、33人の係員に対して「任せる」「認める」「感謝する」を基本にして仕事をされています。

「係員を信じているのでPHSを持ってもらい“任せたよ”と言っております。

PHSできちんと報告があり、困った際は相談があるので、とても安心です」

「私が係員に支えられていますので、いつも“ありがとう”と言っていきます」

全国の参加者は、岡山マネージャーの報告に心から共感しました。

